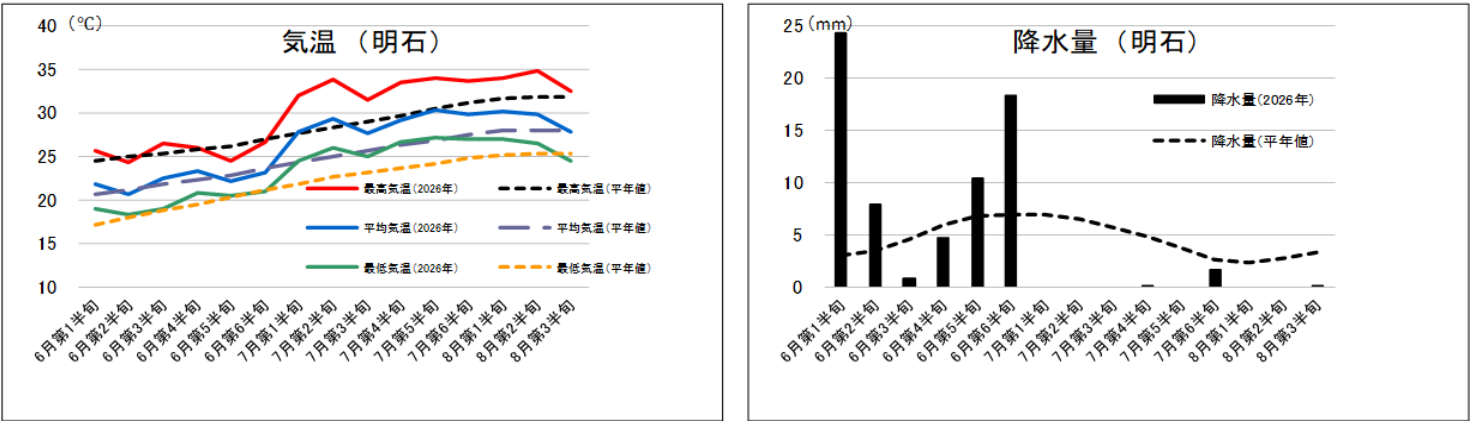


令和8年度 東播磨地域稲作気象台情報 第2号

発行：令和8年8月21日
NOSAIひょうご東播支所

1. 気象状況（気象庁データ〔明石〕：6月1日～8月15日）

今年の近畿地方の梅雨明けは7月8日ごろで、平年よりは11日早く、昨年に比べても大幅に早くなりました。気温は7月上旬以降、平年より高く推移し猛暑が続いています。梅雨時期にまとまった降雨がありましたが、梅雨明け後は降雨もほとんどなく平年より少ない降水量になりました。



2. 生育状況（県立農林水産技術総合センター〔加西〕の気象感応調査結果）

品種	調査日	草丈	茎数	葉数	出穂期
キヌヒカリ	8月5日	103cm (平年比114)	498本/㎡ (平年比137)	14.1枚 (平年差+0.5)	8月3日 (平年比1日早)
ヒノヒカリ	8月15日	78cm (平年比94)	541本/㎡ (平年比129)	15.3枚 (平年差-0.3)	

3. 病虫害発生程度（東播磨管内13定点ほ場での予察調査結果：8月19日実施）

	本田払い落とし					本田すくい取り				
	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビロウンカ	ツマグロヨコバイ	フタオビコヤガ	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビロウンカ	ツマグロヨコバイ	カメムシ類
明石・播磨	少	少	無	無	無	少	無	無	無	無
稲美	無	無	無	少	無	無	無	無	無	少
加古川北部	少	少	無	少	無	無	少	無	無	無
高砂・加古川南部	少	無	無	無	無	少	無	無	無	無

	病害調査							虫害調査（見取り）			
	葉いもち	穂いもち	紋枯病	縞葉枯病	ばか苗病	もみ枯細菌病	稲こうじ病	ニカメイガ	イネミズノウムシ	イネツトムシ	コブノメイガ
明石・播磨	無	無	少	無	無	無	無	無	無	無	無
稲美	無	無	少	無	無	無	無	無	無	無	無
加古川北部	無	無	無	少	無	無	無	無	無	無	無
高砂・加古川南部	無	無	少	無	無	無	無	無	無	無	無

ヒメトビウンカ、セジロウンカ及びツマグロヨコバイの発生が見られましたが、密度は低い状況です。斑点米カメムシ類は、稲美町の1カ所の本田内及び加古川市北部の畦畔でも発生が確認されました。病害では一部のほ場で、紋枯病及び縞葉枯病発生が見られましたが、その他の病害の発生は見られませんでした。

4. 今後の栽培管理について

(1) 病虫害防除

<いもち病>

葉色の濃い所や日当りの悪い所では「穂いもち」に進展することがあります。ヒノヒカリなどの普通期品種では、出穂前にいもち病が目立つことがありますので、観察しましょう。発生している場合は穂肥の減肥や無施肥などの対策を、特に多発している場合は出穂前に治療効果の高い薬剤で防除しましょう。

<紋枯病>

定点の2カ所で発病が見られましたが、高温が続くと、紋枯病が拡がりやすくなります。前年に多発したほ場や、過繁茂のほ場は、注意しましょう。

<トビイロウンカ（秋ウンカ）>

ヒノヒカリ等、収穫が10月以降の品種は特に注意が必要です。「坪枯れ」が発生し減収や品質低下につながる恐れがありますので、9月上旬に1株あたり2頭以上いる場合は速やかに防除を実施しましょう（右写真）。トビイロウンカは主に株元に生息しますので、液剤・粉剤で防除する場合は株元までしっかりかかるよう散布しましょう。粒剤を使用する場合は、散布後、少なくとも数日間は湛水状態を保ちましょう。



<斑点米カメムシ類>

定点の本田内1カ所で発生が確認されています。「斑点米」の原因になりますので、出穂後の薬剤防除を徹底しましょう。カメムシ類への薬剤散布は、ウンカ類やツマグロヨコバイへの防除効果も期待できますので、粉剤等を使用する場合は、株元にまで薬剤がしっかりかかるよう丁寧に散布しましょう。

<イネ縞葉枯病・ヒメトビウンカ>

近年、ヒメトビウンカが媒介する縞葉枯病の発生が問題となっています。「出すくみ症状」や「ゆうれい症状」のある感染株を見つけたら、株ごと抜き取りほ場外へ持ち出し処分しましょう。また、ヒコバエ等でのウンカの越冬虫を減らすために、稲刈り後はほ場を耕起しましょう。

<イネばか苗病>

ばか苗病は種子伝染性の病害です。胞子は100m程度飛散し、感染した株のもみ殻やワラも感染源になります。発病株の見られたほ場やその周辺ほ場からの自家採種は控え、種子は更新しましょう。

◎薬剤使用にあたっては、ラベル記載の適正使用基準を遵守し、隣接作物等へのドリフト防止に努めましょう。

(2) 水管理・施肥管理

<キヌヒカリ・コシヒカリ・あきたこまち・コノホシ等>

根の活力を維持するため、収穫の1週間から10日前まで間断灌水（田面にためた水がなくなったら水を入れる、を繰り返す）を継続しましょう。気温が高く、落水時期が早いほど、乳白粒や腹白粒、未熟粒などが増え、整粒歩合が低下する傾向があります。早い時期からの落水を控え、品質低下を避けましょう。落水後に乾燥が続く場合は、走り水を実施しましょう。

<ヒノヒカリ>

これから出穂期を迎えます。出穂時は灌水状態にし、出穂後は間断灌水に切り替え、根を健全に保ちましょう。

※兵庫県農業気象技術情報サイトへのアクセス方法

兵庫県ホームページトップ画面より、「情報を探す」から「農業気象技術情報」で検索して下さい。
(http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000097.html)



発	行：NOSAIひょうご東播支所
実	体：東播磨水稻病虫害発生調査協議会
施	
主	
機	関：明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町、JAあかし、JA兵庫南、JA加古川南、
関	JA全農兵庫、加古川農業改良普及センター、NOSAIひょうご東播支所
係	
機	
問	合 せ 先：NOSAIひょうご東播支所
合	電話（0794）62-3433